

令和5年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち バイオエコノミー推進人材活動支援事業における取組・成果概要

〔代表機関名〕 釜石ヒカリフーズ株式会社

〔事業実施責任者（プロジェクトリーダー）〕 佐藤正一

〔研究開発プラットフォーム名〕（持-11）さんりく養殖産業化プラットフォーム

1 概要

（1）研究開発プラットフォームの概要

さんりく養殖産業化プラットフォームでは、地域の主幹産業である水産業に新たな業態としての給餌養殖を並立させることによる産業基盤強化や地域振興を目指すため、令和2年から当プラットフォームの下部組織である「釜石地域サクラマス養殖試験研究コンソーシアム」が海面サクラマスの養殖実証化研究を進めている。令和4年度にはサクラマス養殖の漁業権を獲得し、釜石はまゆりサクラマスと命名され量産体制が確立している。

（2）本事業活用による効果

事業実施前

- ・ 輸入サーモンが減少し国産サーモンの需要が増加していることから、サクラマスのほとんどが市外へ出荷されている。
- ・ ご当地サーモンが各地で養殖生産され、販売競争が激化しているが、サクラマス自体の知名度が低く、他のサーモンとの差別化を図る必要がある。
- ・ サクラマスを釜石地域のブランド魚として地域活性化に活用するためには、市民や加工業者と連携を強化し、市民が一体となって市内での流通販売・利用促進体制を構築する必要がある。

バイオエコノミー推進人材活動支援事業

事業実施後

- ・ 市内の水産加工業がサクラマス原料を確保して市内の店舗等がサクラマスを利用できる体制を構築し、市内向けの供給を開始した。
- ・ サクラマスの特徴を考慮したブランド化を図る方策を検討した。
- ・ 市内での消費拡大を図るため、市内飲食店19店舗がサクラマスフェアに参加して各店舗独自のレシピ作りを開始するとともに、市民団体や学校でも家庭用レシピ作りを開始した。
- ・ 市内の大型量販店でサクラマスの販売を開始した。
- ・ 消費拡大を図るため、のぼり、パンフレット、プロモーションビデオ等を作成した。

2 事業概要と成果

（1）ビジネスモデルの構築・検証

サクラマスの市場性や消費者ニーズ等について、首都圏や地元でのイベントを活用し、アンケート調査を数百人を対象に実施して、来場者との意見交換からブランド化に向けた多くのヒントをいただき、サクラマスの利用に係るSWOT分析や簡易的な販売戦略を作成した。

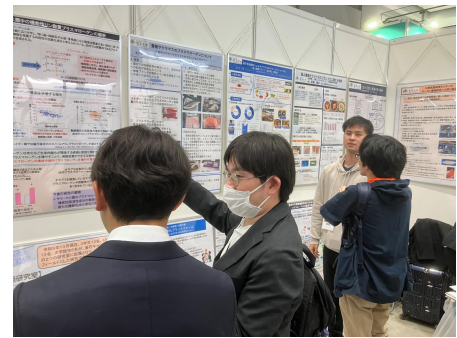
さらに、先進地視察（淡路島）や岩手県食産業アドバイザーの勉強会を通じて、釜石版のビジネスモデルを作成しており、今後の活動の結果により検証を行うこととしている。



アンケート調査での意見交換

(2)事業内容や成果等の情報発信とその効果

- ・首都圏を対象に、釜石はまゆりサクラマスをPRするため、岩手大学と連携してアグリビジネス創出フェア2023に出展し、養殖実証研究や育種研究の成果の情報発信を行った。その結果、首都圏への高単価でのサクラマスの販売量が増加しており、PRの効果に繋がっていると感じているが、具体的な取引先や共同研究先の企業の獲得までは至っていない。
- ・釜石地域に対しては、産業まつり等を活用して、他の養殖サーモンや従来の天然サクラマスとの違い、サクラマスの購入方法等について説明を行った。その効果は令和6年度以降の地元消費量から判断したい。



アグリビジネス創出フェア
2023でのブース展示

3 今後の展開

産学官金組織で連携した釜石地域サクラマス養殖試験研究コンソーシアムの活動を強化し、以下の取り組みを計画している。

- ・地元関係者が一体となって販路拡大を図る必要があることから、自主的に販売促進活動ができる新たな協議会を設置する。協議会は、事業で制作したプロモーションビデオやパンフレットを活用して、出張ビジネスマンや観光客向けの販売促進を図ることを目指す。
- ・地元の消費を喚起する必要があることから、高校生の調理学習や食生活改善推進員の食材に積極的にサクラマスを活用する。
- ・日本大学芸術学部の地域貢献、映像、デザインのノウハウを活用し、新たなロゴやPR方法を検討して、他では真似できない釜石独自の地域ブランドを構築する。
- ・釜石市はラグビーの街であり、日本代表のエンブレムがサクラであることから、ラグビー普及事業との連携を図る。
- ・サクラマス養殖業者が国際認証ASCを取得したことから、環境、安全性、人権等に配慮した生産であることを消費者にPRして、他のサーモンとの差別化を図る。
- ・地場産業を活性化するために、三陸鉄道とのコラボによる食べ比べ丼や見学ツアーなどを企画提案する。
- ・岩手大学と連携し、種苗生産の育種段階から味や脂の乗りが老若男女の嗜好に適宜対応できるオーダーメイド型の養殖生産体制を構築する。



サクラマスフェアの
案内ポスター



日本大学芸術学部が作成中の
パンフレット

問合せ先

釜石ヒカリフーズ株式会社
代表取締役社長 佐藤 正一
(TEL : 0193-55-3663 、アドレス : company@hikarifoods.jp)